

つながる昔っこ (昔話) ⑦

# 豆コの話

(標準語Ver.)



国土交通省 東北地方整備局  
岩木川ダム統合管理事務所  
イラスト：やざわ ゆな  
カラーリング：つしま けいこ

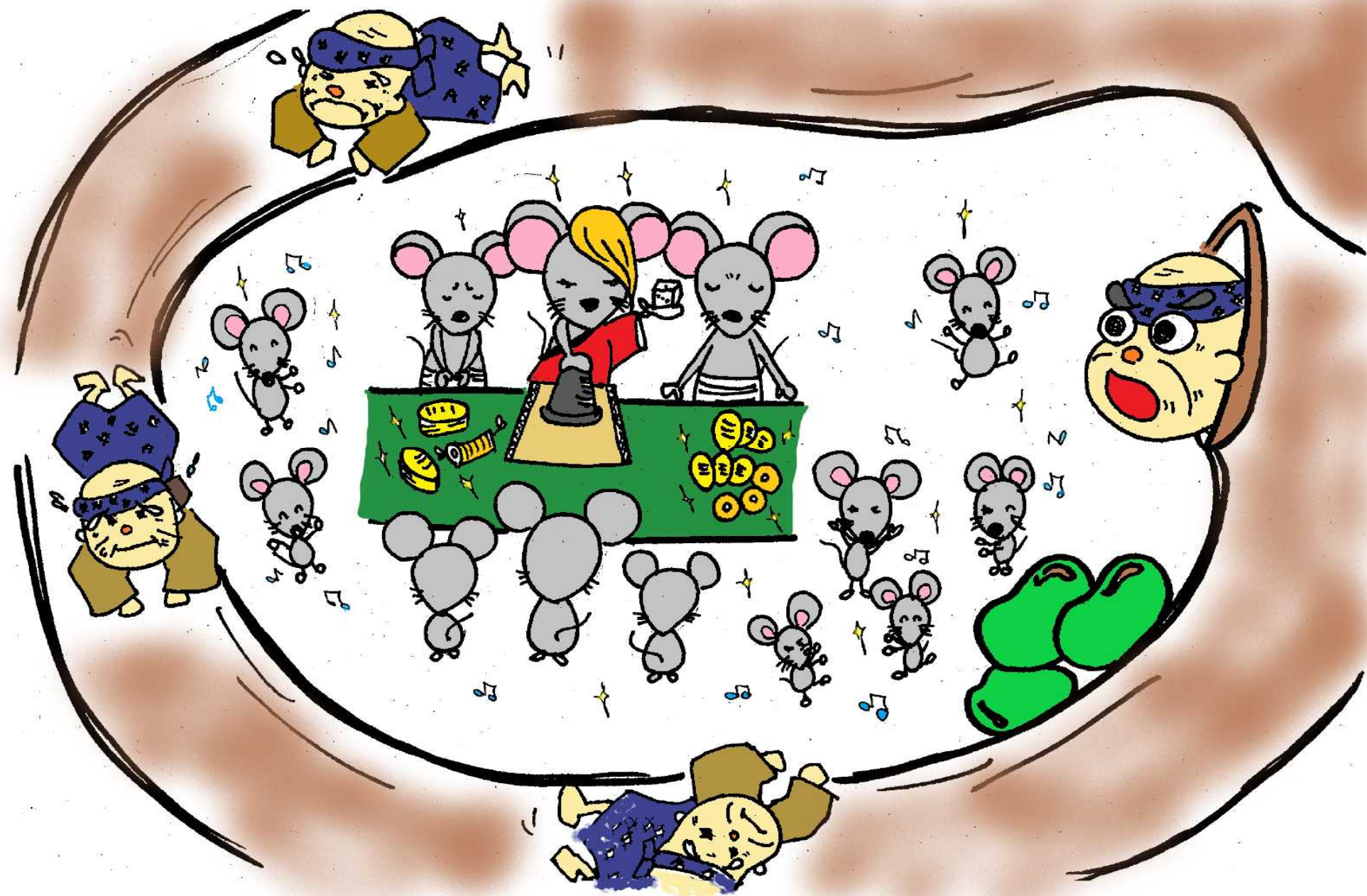
昔、おじいさんとおばあさんがいました。  
土間で豆コを脱穀しました。





そしたら、豆コ、ころころって転がりました。拾おうと思ったら、コロコロってねずみの穴に入ってしまった。

おじいさんは、豆コ惜しいし、仕方ないので、ねずみの穴をほって進んでいきました。



そしたら、ねずみたちが何匹もいました。何をしているのだろうかと思ったら、大判小判で博打をしていました。

『さあさ、明日の晩までやりましょう』とねずみたちが話していました。おじいさんはそれを聞いて（あしたの晩にまたここに来よう）と思いました。



次の日、またねずみの穴をほっていきました。行ったらまだ博打をしていました。『二十歳になっても、三十歳になっても、にゃーおんの声は聞きたくないな』と言いながら、やっていました。

おじいさんは（しめたものだ）と思って、『にゃーおん』って猫の鳴き声をしました。そしたら、『あっ、猫が来たかな』と。

だからもう1回『にゃーおん』と、言いました。それだから、ねずみたちは、そのお金を置いたまま、『猫が来た、猫が来た』って逃げてしまいました。

そして、おじいさんはそのお金をいっぱい袋に入れて担いでいきました。そのことをおばあさんに教えていて、『わしはこうやったら、こうなった』と。そしたら、隣の欲ばりな爺さんが来て、その話を聞いていました。

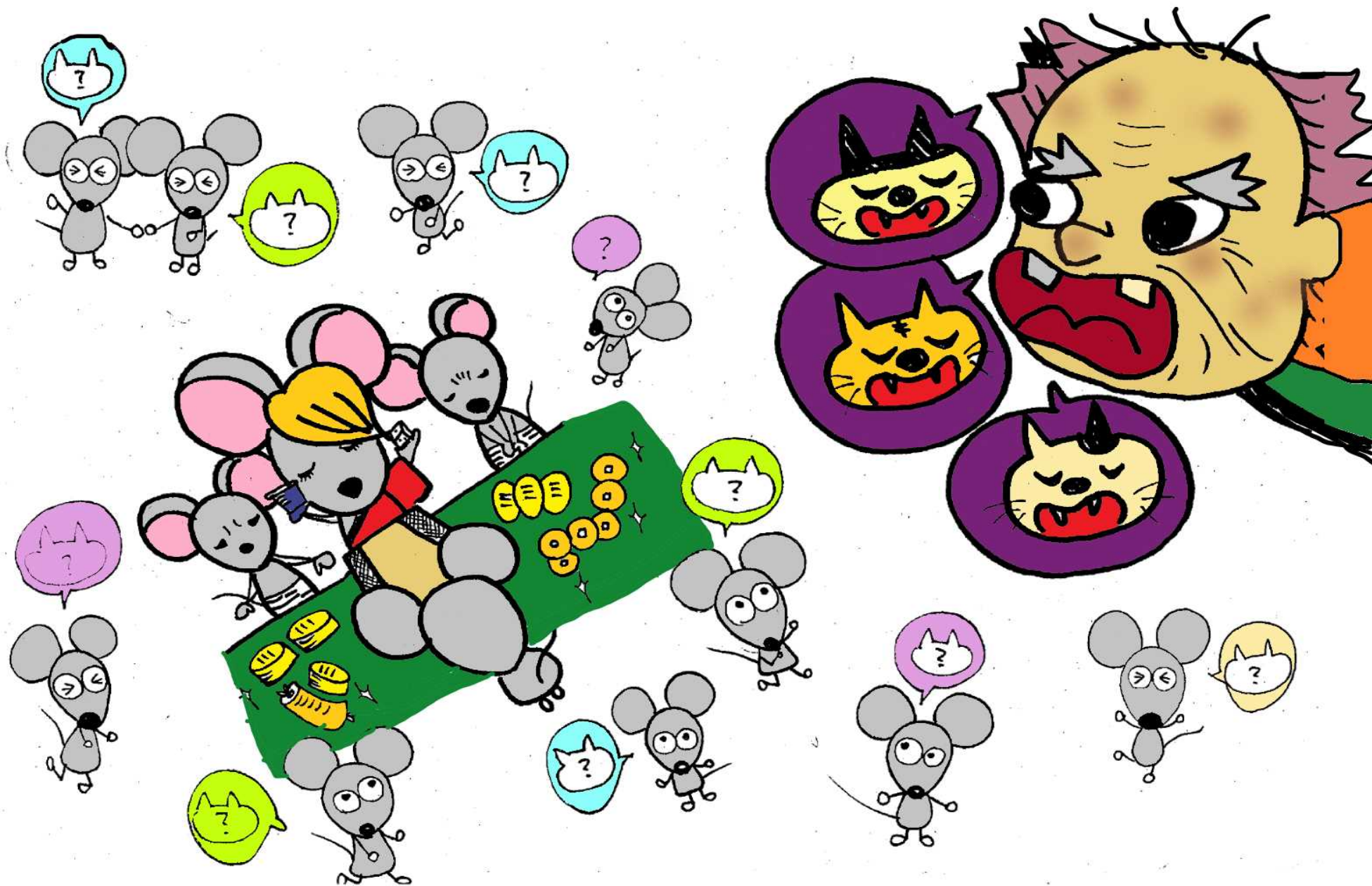


『あなたの家で  
どうしてそんな  
にお金がある  
の』と。そう聞  
かれたので、お  
じいさんは正直  
な人なので、全  
て教えてあげま  
した。



そしたら欲張りな爺さんは、家に帰って婆さんに教えました。『爺さん、爺さん、あなたもそこへ行ってきたさい』と、言いました。『それなら行ってくるか』と。

わざと豆コ1つ、無理にその穴に入れて、入っていきました。



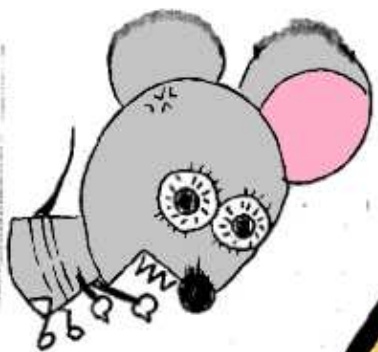
そしたら案の定まいました。爺さんはそのお金が欲しくて猫の真似をしました。けども、最初のおじいさんのと違って、その猫の真似がおかしいのです。今度は2回鳴きました。そしたら、





『あっ、猫じゃない。人だ。』とねずみたちはみんなで、爺さんをひっかいたり、噛みついたりして、爺さんは血だらけになって、真っ赤になって、穴から出てきました。

ですから、あまり欲張りな心をもつものじゃないですよ



おしまい

